総合スーパーのイオン（本社・千葉市美浜区）は、十数年前から新設するショッピングセンターなどの敷地内に、地域の自生木の苗木を植え、育てる活動「イオンふるさとの森づくり」を展開している。今、全国の都市や郊外に息づくグループ全体の森は407カ所、486万本。「21世紀は南北問題、とりわけ環境が重要なテーマとなる」と達観した当時のグループのトップ、岡田卓也名誉会長相談役(78)が決断し、市民に参加を呼びかけて植樹を実施してきた。「トップの決断」を促したのは、独自の森づくりの理論で三十数年来、国内外で植樹活動を指導してきた横浜国立大学名誉教授、宮脇昭さん(76)。「本物の森」づくりにこだわる2人が、その思いと次代への期待を率直に語った。

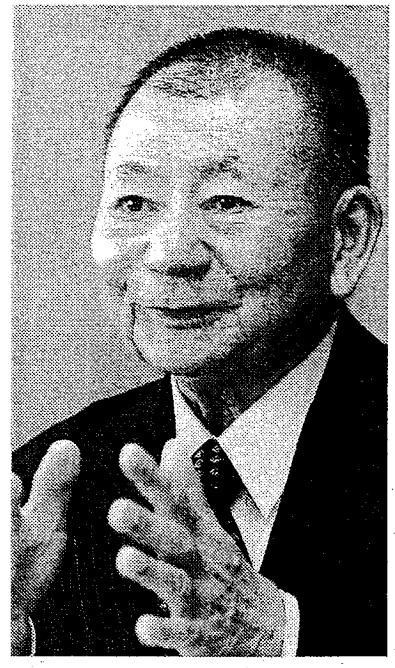
（司会は毎日新聞東京本社地方部編集委員・成井哲郎、写真はいずれも米田堅持写す）

『本物の森』をつくる

イオングループ　すでに全国407カ所に

岡田卓也　イオン名誉会長相談役

おかだ・たくや　1925年、三重県四日市市の老舗、岡田屋呉服店の長男として生まれる。46年、早稲田大の学生のまま（株）岡田屋の社長に就任。69年、同業2社とジャスコを創立し社長、84年に会長。89年にグループ名称を「イオングループ」に変更、00年から名誉会長相談役。日本チェーンストア協会会長、東京商工会議所副会頭などを歴任。現在（財）イオン環境財団理事長など。



宮脇昭　横浜国立大学名誉教授

みやわき・あきら　1928年、岡山県生まれ。広島文理科大卒。ドイツ植生図研究所で潜在自然植生理論を学ぶ。帰国後、横浜国立大学教授、国際生態学学会長などを経て、同大名誉教授、（財）国際生態学センター研究所長、長野県自然保護研究所長。「ふるさとの木」を使い、混植、密植する独自の植樹法で国内780、海外500カ所で森づくりを指導。「植物と人間」で毎日出版文化賞。

各店舗に憩いの森　岡田さん

――森づくりの「決断」は、岡田さんが元々、自然や植物に興味がおありだったからですか。

岡田さん　母方の祖父の影響があると思いますね。農林技師で、植物に詳しく、子どものころから花木の名前を教えてもらったりしているうちに、自然と関心を持つようになったのでしょう。四日市は昔、焼き物の万古焼が盛んで「万古の煙は空高く」なんと歌われ、のどかな町でした。それが1955年ごろから庭のモクセイの花が咲かなくなり、ナンテンの実もならなくなってきました。コンビナートによる汚染の影響は、まず植物に表れました。

宮脇さん　よく気づかれましたね。60年代は、「開発」を錦の御旗に山を削り、海や川を埋め尽くし、日本列島全体が開発に突き進んで行きました。初めはみんな喜んでいたんですが、やがて生物的本能から「おかしい」と気づき始めたんです。四日市や水俣など局地的な告発運動に端を発し、しだいに地球規模へと進んでいきました。60年にドイツ留学から戻った私は、「鎮守の森」に代表される本物の森をつくるべきだ」と訴えたんですが、誰にも相手にされませんでしたね。それが60年代の終わりごろになると、環境破壊がクローズアップされ、公害対策からか、多くの企業担当者が私を訪ねて来られるようになったんです。皆さん、こう業張り的な緑化を望んでおられたようですが、私は「そんなのじゃだめだ。本物の森をつくらなければ」と言うと、100社中95社ぐらいの方が、みんな怒って帰ってしまいましたね。それでも、残った5社ぐらいが「腹は立つけど、試しにやってみよう」と、私の指導に沿って木を植えてくれました。今、ショッピングセンターや製鉄所、発電所などの周りには立派な森ができていますよ。

岡田さん　当時、私は仕事に夢中でしたが、それでも何か世の中に役立つことがしたいと思っていました。岡田屋のころ、四日市駅前に店舗を開店した時、「人も通らぬ70メートル道路」などといわれた殺風景な駅前通りに花壇を作りました。また県外1号店を愛知県岡崎市に出店した時も、開店パーティーをせずに、そのお金で桜の苗木700本を市に贈ったこともあります。桜の名所として市民に親しまれています。

宮脇さん　木は、後々まで残りますからね。桜を贈ったことがありますね。私どもも、これにならってグループ企業の一つである米国タルボット社の本社のあるボストン市に93年、桜の苗木500本を寄贈しました。チャールズ河畔に植えられましたが、いつまでもボストン市民に愛され、憩いの場になってほしいと願っています。

――お二人の出会いは印象深いものであったようですね。

宮脇さん　15年ぐらい前でしょうか、イオンの季刊誌で岡田さんと対談したのが最初でしたね。私は「スーパーが掘っ立て小屋のようなものをつくり、中をキンキラキンにして『安かろう悪かろう』でやっていたら長持ちしませんよ。これからは米国のスーパー、ウォルマートのように大駐車場を設け、緑に囲まれながら食事をしたり買い物を楽しむような店を作ったらどうですか」などと言いたい放題、言いました。岡田さんは眼光鋭い目で私の話をじっと聞いているだけで、何とも言いません。普通はこれでおしまいですが、次の日から担当者が次々、私のところへやって来られたのには驚きましたね。

岡田さん　当時、大規模小売店舗法の規制はやがて緩和され、次に問題となるのは「環境だ」と思っていました。モータリゼーションがさらに進み、今後、大規模なショッピングセンターをつくろうとすれば、当然、この問題は避けて通れない。21世紀は「南北問題」、とりわけ「環境問題」が先進国の間でもキーワードになると読んでいました。だから、先生の「今、問題になっている緑の問題は、生物の一員としての人間が自分の生存環境の荒廃に対して起こした、やむにやまれぬ防衛本能的な衝動である」というお話をうかがって、わが意を得たりと、翌日、開発部員に話を聞きに行くよう指示したんです。

宮脇さん　うれしかったですね。どこの企業でも大体、トップは話せばわかるが、下におりるにしたがって「（植える）場所もなければ、時間もない」となり、やがて話は消えていくんです。

岡田さん　今、日本にはいろんな問題が山積していますね。特にバブル崩壊後、ひどいのが政、官、財。ただ、そんな中で唯一の救いは「何か役立つことをしたい」という市民が増えていることですね。私どもが植樹を呼びかけても、毎回200人、3000人に参加していただけます。万里の長城の植樹では、4000人が10万円以上払ってまで参加していただいたことには、たいへん感激しました。

宮脇さん　最初は嫌々ながら義理で参加した人も、帰る時はいきいきした顔をしています。こうした市民のニーズをなぜ行政や企業は使い切らないのでしょうか。

岡田さん　95年4月、青森県下田町でショッピングセンターを開店した際、植樹祭を行いました。寒い日でどのくらいお客様がいらっしゃるか心配でしたが、米軍三沢基地から家族たちがバス3台を連ねて来ていただきました。地域の人も含め2000人に参加していただきました。本当にうれしかったですね。私は常々「こういう人こそ本当のお店のファンだ」と、会社で言っているんです。

植樹は環境教育だ　宮脇さん

――これからの森づくりをどう考えますか。

岡田さん　世の中も変化し、ショッピングセンターのあり方も変わってきました。これからは店舗の周りに木を植えるだけでなく、お客様が憩える森を一つのショッピングセンター1カ所、つくりたいですね。水場があり、虫も生息しているような自然な形の森が理想なんですが……。

――イオングループは子どもたちへの支援にも力を入れておられますね。

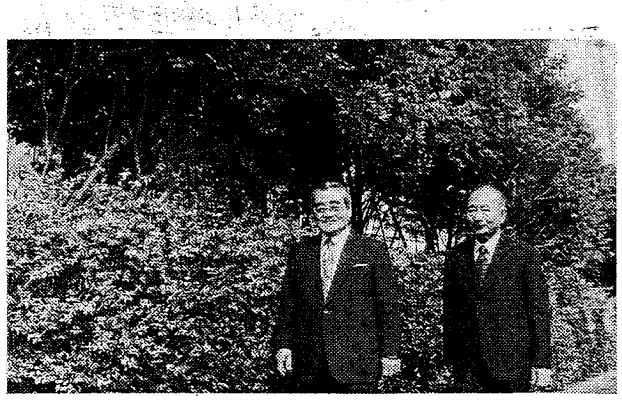
岡田さん　なんと言っても次代の日本を背負う人たちですからね。戦後、教育のやり方を間違えたため、今、いろんな問題が起こっています。植樹祭にはみなさん、子どもさんを大勢連れてこられますが、自分で土を掘ってもらうのが大事で、全店舗で「イオンこどもエコくらぶ」を支援したり、環境をテーマにしたエコロジーミュージカルなどに出演していただき、自然の大切さを理解してもらえたらいいなと思っています。

宮脇さん　今、子どもたちは生き物を殺してもボタン一つで生き返るバーチャルな世界で育っていますから命に対してリアルな体感がない。自分の目で見て、においをかぎ、土を掘って木を植える。自分で植えた木が2～3年後には、こんなに大きくなるとわかれば、それだけで立派な環境教育になりますよ。

――社会貢献活動をどう位置づけますか。

岡田さん　アメリカのミネアポリスにデイトン・ハドソンという百貨店があります。利益の5%を社会貢献に充てる「5%クラブ」を最初につくったことで知られています。この会社が貢献されるようになった時、これだけ地域に尽くしているハドソンを救えと、市民が立ち上がり、州法を変えてまで貢献から守った歴史があります。この話を聞いて私どもも、ジャスコ誕生20周年を機に、「（財）イオン環境財団」と「イオン1%クラブ」を設立しました。来年、環境財団ができて15周年になるのを記念して15万本くらいの木を各地で植えるイベントを考えています。

宮脇さん　みなさん、新しいことにはすぐ飛びつきますが、途中ですぐやめてしまう。その点、15年も森づくりを続けてこられたことに頭がさがります。まさに本物ですね。



大きく育ったジャスコ相模原店の森を感慨深げに散策する岡田さん（左）と宮脇さん＝神奈川県相模原市古淵で

イオンの社会貢献活動

イオンは、ジャスコ誕生20周年を機に、社会貢献活動を行う「イオン1%クラブ」を設立した。グループの優良企業の税引き前利益の1%を社会貢献活動に充てるもので、①環境保全②国際的な文化・人材交流③地域の文化・社会の振興――の3本柱をテーマに、さまざまな貢献活動を行っている。

また、91年には差し迫った環境問題に対応するため、「（財）イオン環境財団」を設立、①知床・森の再生運動②佐渡トキの森づくり③万里の長城・森再生プロジェクト④アンコールワットの植樹活動――など木を植える活動を中心とした地球環境の保全活動を国内外で進めている。

あすを植えよう